

未来へ紡ぐ平和の願い

市内には、戦争の犠牲となった人々を祀るための慰霊碑が各所に建立されています。先人たちの想いを引継ぎ、現在、そして未来へ平和への願いを繋いでいきましょう。



和魂の塔

所在:那覇市松山1-16
(那覇商業高等学校内)

沖縄に米軍が上陸する直前の3月末、学徒隊としての動員令が下り、那覇商業学校生は鉄血勤皇隊を組織。烈しい戦争に従軍し、学業半ばにして犠牲となった那覇商業生の戦死者、学校職員を含め165柱が合祀されています。
(出典:『沖縄の慰霊塔・碑』)



安守之塔

所在:那覇市宇安謝621

戦争の犠牲となった200余名の安謝区出身の人々が祀られています。



特設警備第223中隊 永岡隊慰霊之碑

所在:那覇市首里寒川町1-2(安國寺内)

戦いが激化する中、防衛のために軍とは別で一般市民を集め組織された特設警備第223中隊の戦没者243名が祀られています。



平魂之塔

所在:那覇市首里平良町2-67

戦争により犠牲となった住民や兵士、首里平良町にゆかりのある方が祀られています。



静魂之塔

所在:那覇市首里石嶺町1丁目
(27番地近く)

戦時中に海外へ出兵していた首里石嶺町本字出身の人々が、沖縄に帰ってきた時に仲間が戦死したことを知り、塔を建立。首里石嶺町本字出身の戦没者93名が祀られています。



那覇市恒久平和モニュメント「なぐやけ」

所在:那覇市若狭1-26

戦争の犠牲となった那覇市民戦没者3万余名の名簿が奉納されています。



海鳴りの像

所在:那覇市若狭1-25

太平洋戦争中、対馬丸を除く25隻の船舶で犠牲となった戦没者の霊が祀られています。



殉職警察職員慰霊之碑

所在:那覇市若狭1-25

戦前から復帰後にかけて殉職した警察職員140名が祀られています。特に戦時中の犠牲者が多く、米軍の空襲により102名もの職員が亡くなりました。



小桜の塔

所在:那覇市若狭1-25

学童疎開船対馬丸は米潜水艦の魚雷攻撃を受け沈没。学童788名、引率教師・世話人28名、そのほか対馬丸乗員の計1,484名の尊い命が奪われました。これらのみたまを弔い世界の恒久平和を念ずるために多くのの人々の善意で建立されました。
(出典:『沖縄の慰霊塔・碑』)



戦没新聞人の碑

所在:那覇市若狭1-25

戦禍の中2カ月に渡り新聞を発行し続け戦死した、沖縄新報社、朝日新聞社、毎日新聞社の14名が祀られています。(出典:『沖縄戦跡・慰霊碑を巡る』)



二中健児の塔

所在:那覇市楚辺1-4

沖縄県立第二中学校の職員・生徒は、軍命により鉄血勤皇隊を組織し、各地の戦闘にあたりました。昭和32年、二中健児之塔期成会により、塔を建立。戦没者を追慕し、冥福を祈り、永遠の世界平和を祈願しました。平成2年に現在の城岳公園内に移設。
(出典:『沖縄の慰霊塔・碑』)



久場川町慰霊碑

所在:那覇市首里久場川町2丁目(15番地近く)

久場川町に駐屯していた第32軍部隊の生き残った兵士たちが仲間を想い慰霊碑を建立。久場川町の住民も一緒に祀られています。



一中健児之塔

所在:那覇市首里金城町1-7

沖縄戦で戦没した藤野憲夫校長以下沖縄県立第一中学校の職員、生徒を合祀しています。この地は、県立第一中学校の養秀寮の跡地であり、鉄血勤皇隊の結成地、最初の犠牲者が出た地です。生徒によって組織された鉄血勤皇隊は、熾烈な砲爆撃下に軍と行動を共にして戦死しました。
(出典:『沖縄の慰霊塔・碑』)



平和祈念碑

所在:那覇市高良1丁目(高良公園内)
戦争により犠牲となった高良出身者145名が祀られています。



報徳碑

所在:那覇市田原2丁目(田原公園向い)
金城善栄氏と妻の善子氏が祀られています。金城夫妻は地域社会に大きく貢献し、善栄氏は第8代小禄村長として戦禍の中村民を助けようと尽力しました。(出典:『田原字誌』)



積徳高等女学校慰霊之碑

所在:那覇市松山1-9(大典寺内)

私立積徳高等女学校の戦没職員、卒業生、生徒72名が祀られています。(出典:『知っていますか? 沖縄県に建つあなたの都道府県の慰霊塔と慰霊碑を- 今、その意義を考えてみませんか-』)



南洋群島沖縄県人戦没者 並開拓殉難者慰霊碑

所在:那覇市繫多川15-26

旧南洋群島には、戦前6万人の県人が移民していましたが、太平洋戦争において、1万2,826名が戦禍により犠牲となりました。その御霊と、開拓途上犠牲となった者の霊を慰めるため、県内外の生存帰還者の浄財により建立されました。
(出典:『沖縄の慰霊塔・碑』)